

えん農村おぐに

営農と良い（方言：ええ）

■ 基本理念

築250年の古民家をシボルとし、緑豊かな農村で7g'リ'ジ'ネを展開し、地域の活性化を促して、農業や他の農村地域のモデルになるような計画とします。

■ 基本方針

今回の計画は、他の農村地域のモデルになると考えられるので、現在ある物を最大限に活かしてあまりお金をかけないで行う必要があります。そこで改修は大きく手を入れずに、補修のみを施し、より愛着がもてる様に自分たちの手で直しながら利用していきます。

建物の活用方法は、自然をより身近に感じる古民家の懐かしさやどこかホッとする癒しの空間で、心に残る体験や人との交流を行います。

■ 地域の「茶の間」

この農村地域全体を「大きな家」と例えると、各家々が個室（プライベートーム）となり、計画地の古民家は家族が集まる居間や茶の間等のパブリック空間の位置づけとなります。地域の人々みんなで集り、季節行事（正月・節分・雛祭り等）を古民家で行います。現在では各家庭で行っている事を、地域ぐるみで行えば家庭の負担の軽減にもなり、イベントはより盛大で楽しい思い出になります。

子供からお年寄りまで深い絆で結ばれ、思いやりのある明るい農村になることでしょう。また、そうした絆により村人の一大行事の冠婚葬祭等は昔ながらのスタイル（花嫁行列や野辺送り等）で地域全体で行なう事でしょう。

■ これからの農村の課題

農村の活性化の為に、若者を地域に定住させなければなりません。その為には、若者の結婚と定住の為の仕事が必要となります。

・アグリビジネス

農産物生産＋加工＋直売（1次＋2次＋3次産業）・農家民泊
乗馬センター：近隣の乗馬クラブと連携・祭等に内外馬
滞在型市民農園：休耕地を利用

農村7キング利デー：7キングにより長期滞在（遠隔地から・青年層・独身女性）
自動車運転免許学校との連携により、遠隔地からの農村滞在（合宿）で利用

・農村婚活コンパ

「出会いは里山にある」というキャッチフレーズで、農業好きの独身男女と一緒に汗を流し農作業しながら出会える場があります。

・子どもいっぱい村

地域活性化し「結い」で結ばれた村は、子育ても地域ぐるみで行い、安心して子供を生める環境であり、結果的に子どもがたくさんいる農村となります。



■ 近隣の施設と連携して利用の活性化をはかります



施設名	施設内容
霊山こどもの村	遊びと学びのミュージアム、ミニ天文ドーム、オートキャンプ場、コテージ
紅彩館	日帰り入浴、宿泊施設、レストラン、登山の拠点
霊山里山がっこう	パン・ピザ作り体験、宿泊施設
月見館森林公園	ハンガロー、キャンプ場、芋煮会場、親水公園
つきだて花工房	宿泊休憩所、ハーブ湯、日帰り入浴

■ 既に活動している地元団体との連携

・霊山農テク学校（霊山あぶくま農業応援隊）
一般市民参加型農業体験学校
・霊山町が「リン・ワイルド」推進協議会
炭焼き道場、森藤ファーム、清果園、和紙工房やしま、霊山太鼓保存会、
斉藤シイ農場、登山道先案内人、なつかし味俱樂部、天蚕と繭体験館、
八島いちご園、わらじ作り

■ 農村でやってみたいこと

川遊び・まつり・そば打ち・登山ハイキング・酪農体験・陶芸手工芸体験・炭焼き
・山菜採り・伝統芸能体験

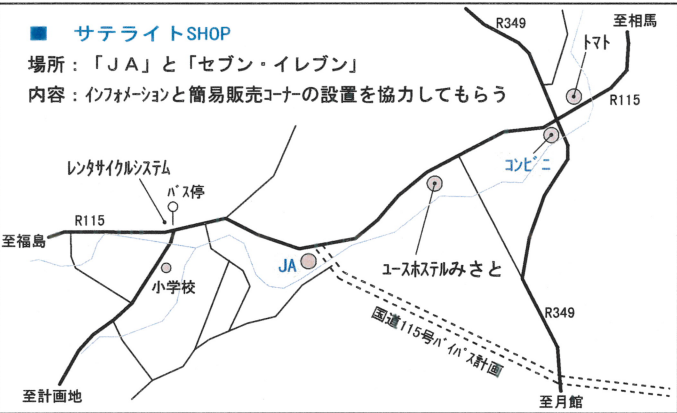


■ 空き家を「健康福祉型グリーンツーリズム」に利用

地域の空き家を、長期農村滞在型の余暇活動に利用します。近年の健康志向の高まりから、農業や農村における生活が心身のリフレッシュに効果があり、健康増進や病気予防になり、また、ストレス過多・オーバーワーク・人間関係悪化等から受ける心の病の治療として、安らぎや癒しになることを期待しています。

■ 交通手段の見直し

・レンタサイクルシステム
バス停（国道）からの送迎には農家の負担にならない様に、放置自転車をリユースした「地域型レンタサイクル」を導入を提案します。
・地図を頼りに目的地まで歩く
子どもたちには、都市に無い貴重な体験を創出する仕掛けづくりとして、不便性を逆に活かした「セルフマップ」づくりや、「セルフ体験」が予測不可能な魅力になります。

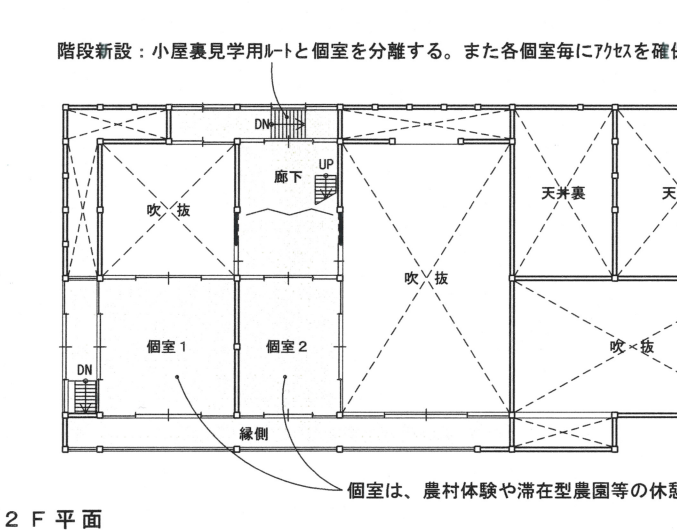


■ サテライトSHOP

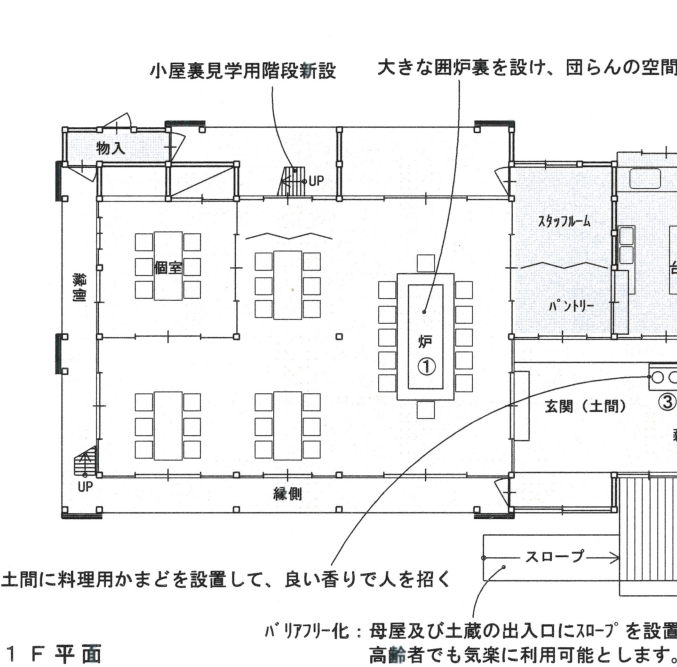
場所：「JA」と「セブン・イレブン」
内容：インフォメーションと簡易販売コーナーの設置を協力してもらう
1階：宅配弁当及び農村レストラン、2階：休憩宿泊、小屋裏：養蚕展示（農閑期には、草から糸を紡ぐ体験・木の実染め・カゴ編み・わらじや米俵作り・廃油で作る石鹸などの作業をお客さんに見える所で行なう）

5つの火（スローな火の設備）の再生

①囲炉裏 ②薪ストーブ ③かまど ④五右衛門風呂 ⑤石窯（ピザ）



2 F 平面



1 F 平面

■ 茅葺き文化の保存

この上小国地区は茅葺きの屋根でも新築可能な地域で近くに女性茅葺き職人（大橋百合子氏）もいる恵まれた場所でもあります。
美しい農村風景の復元と茅葺き屋根の生活技術を継承させるには、茅葺き屋根に復元する必要があります。しかし、葺替え工事には多額の費用と地域の人々の手伝いが必要となります。

・茅葺き屋根の復元は将来に

今回の事業計画の本丸は地域活性化であり、古民家を利用し7g'リ'ジ'ネを成功させ、農村がより元気になった際には、「強い結い」のもとに葺替えれば良いと考えられます。

・茅葺き屋根は身近な物から

バス停やゴミ置き場など公共施設や、井戸小屋や水車小屋などの農業施設等の地域内の身近な物から茅葺きにしていきます。作業は地域住民及び学生・一般市民等の協同行ないます。この様な取組みが少しずつ「美しい農村風景」を構築していきます。

■ 女性主導の運営に

農業は「男のロマン、女の不満」と言われて敬遠されたりしていたが、これからは「女のロマン、男の我慢」と言って笑っていられる様に、農村女性の自立性が高まっています。そうした女性たちが希望をもって生活していく為に、女性が主体となり、農村レストランや高齢者への弁当宅配・イベント時の御膳作りなど、健康的な「郷土の家庭料理」にこだわった食の事業を運営していきます。

■ 農村レストランのメニュー

田舎飯・石窯焙煎コーヒー・かぼちゃスープ・石窯天然酵母パン・石窯ピザ・うどん
手打ちそば（自分で打っても良い）・その他季節のもの
（食材は自ら生産し納入し、足りない物は近くの学校の農園や地元農家から仕入）

■ 土蔵の利用方法

・読み聞かせ会（歌や寸劇を取り入れた）
子どもと大人の関わりを密接にし、子どもの心と言葉を育むのに最適であり、文字に邪魔されずに楽しみ、想像力を豊かにする
・子ども交流の場（隠れ家的学童保育）
放課後の学習（上級生が教える）
子ども書庫（不要になった本や雑誌）
・芸術体験の場
コンサート（生の演奏にふれあう）
プロジェクトによる「映画祭」
様々なアートの展示会

